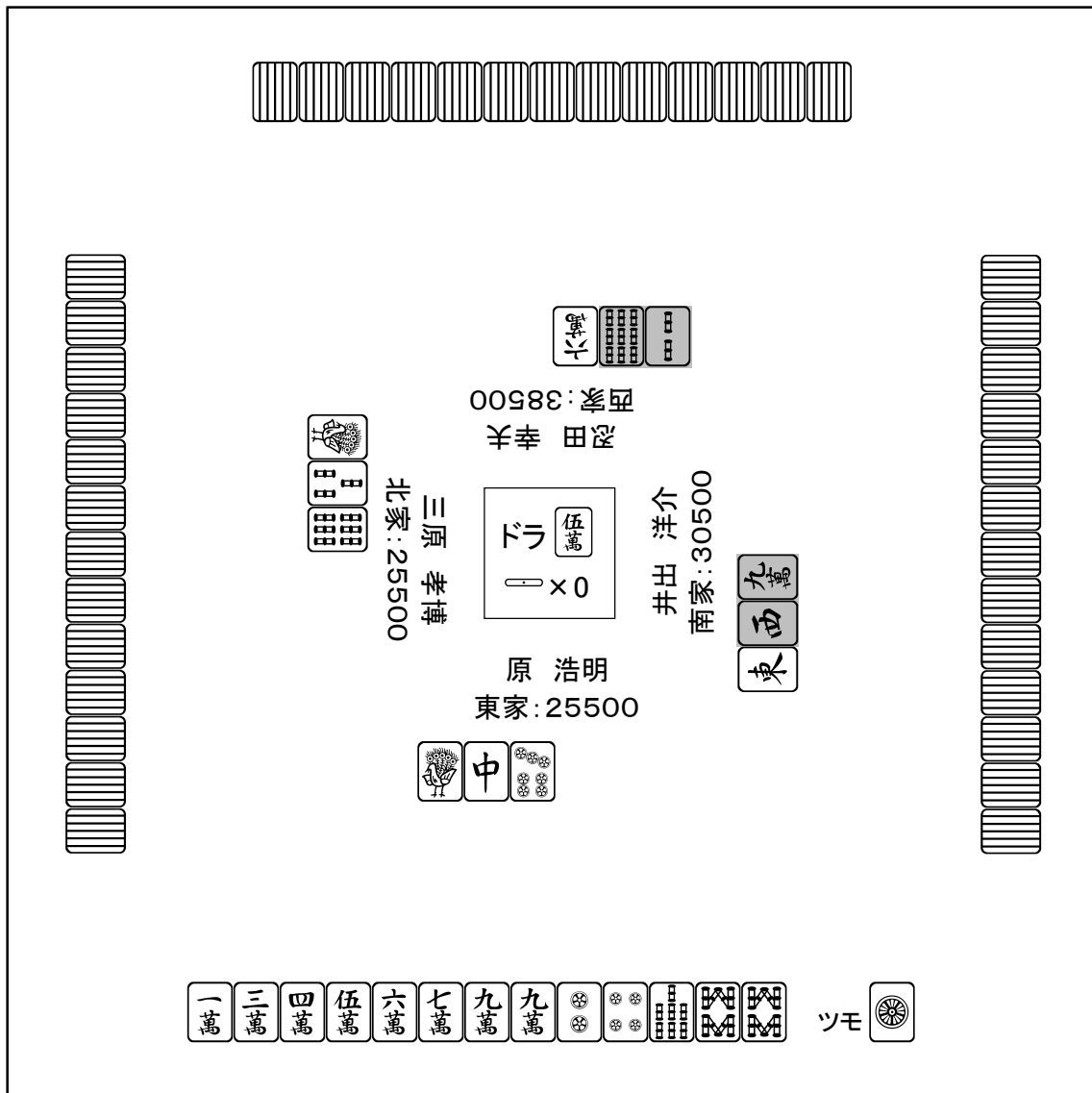








# 第1回 BIG1カップ 決勝2回戦 東3局その1 4巡目



早いと思われた南家はツモ切りが続き、まだ手は進んでいない。

西家は 手出し。早い手なのか、ピンズの一色手なのか。もしくは、チートイツで将来危険になりそうなドラマタギの を先に処理したのか。もう少し先に進んでみないと分からない。

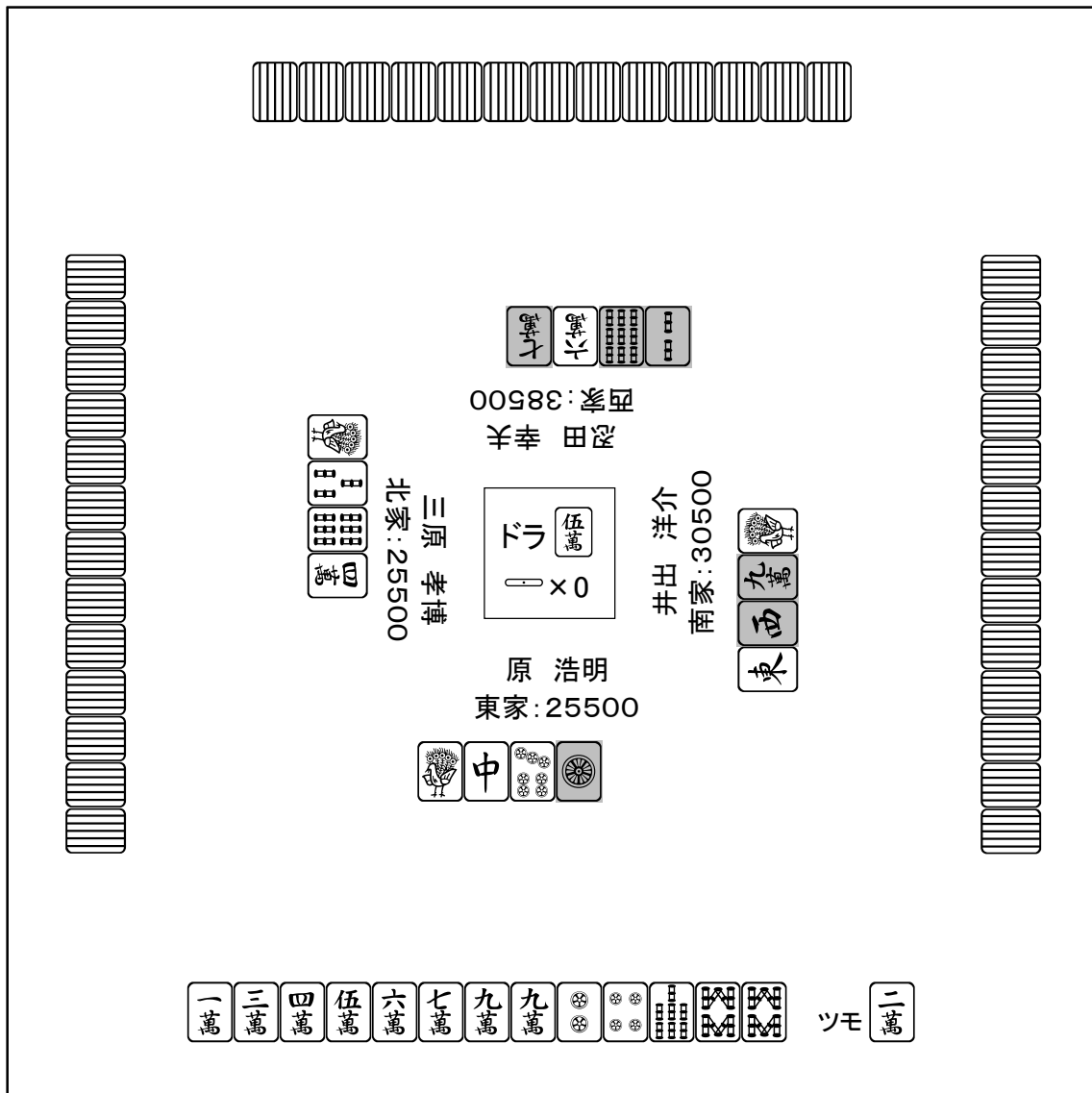
北家は、カンチャンを払った後に 手出し。こちらも早い手なのか、一色手なのか、チートイツ含みなのか。こちらも、もう少し先に進んでみないと分からない。

西家も北家も、次巡以降の捨て牌から分かることも出てくるであろう。

ただ、自分に字牌がなく、西家と北家は1枚も字牌を捨てていないので、全員の手牌に字牌がないというのは考えにくい。さすがにどちらかには字牌が入っているであろう。

一方、自分のツモ は不要牌なので、ツモ切り。

# 第1回 BIG1カップ 決勝2回戦 東3局その1 5巡目



南家は 手出し。これは、手牌の中に に関連する牌があったということであろう。

( や を複数枚持っているか、 と入れ替わったか)

1巡目にダブ を切るために、不要でも端牌を持つことはあるが、この局の場合は少し違う。

それは2巡目に をツモ切っていること。安全度の高い よりも、 の方が大切であった可能性が高いということである。

西家、北家の捨て牌は、それぞれマンズの中張牌。これで捨て牌と合わせるとピンズの一色手が見える手になっている可能性が高い。

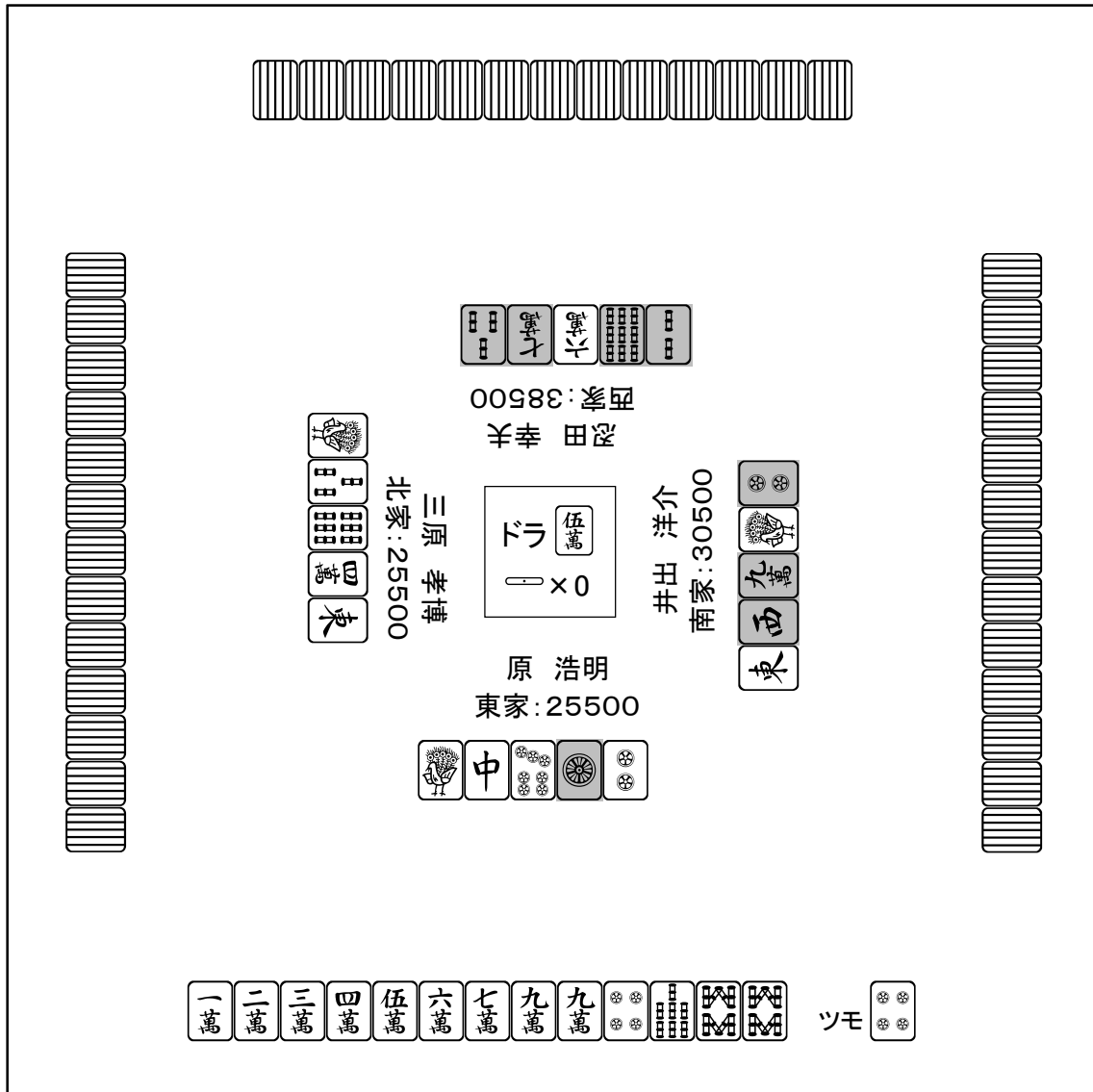
一方、自分はツモ で、 か を切ればイツターのイーシャンテンになる。

しかし、西家、北家にピンズが多い可能性が高く、終盤も出づらい状況になりやすい。そうになると、カン が残ると苦しくなりそうである。


そこで、イツターは崩れる可能性があるが、イーシャンテンに取らず 切りで、マンズとソーズの伸びを見た。



もちろん、ピンズが高い(あまり場に出ていない)とはいえ 切りで、 引きを期待する手もあり、 切りはなかなか思い切った手である。


# 第1回 BIG1カップ 決勝2回戦 東3局その1 6巡目






南家はツモ切りで特に情報なし。




西家は、 ツモ切りで、ピンズの一色手の可能性がより高くなった。(ピンズ以外の中張牌が多く出すぎているため)

問題は北家。まだ1枚切れの 手出しなので、こちらはピンズの一色手とは限らない。配牌から好形で、 を絞っていただけかも知れないためである。

しかし、自分もツモ で苦しいピンズがアタマになって、イツツー含みの広いイーシャンテンになった。

北家は気になっても、この手なら自分のアガリを優先して考える。

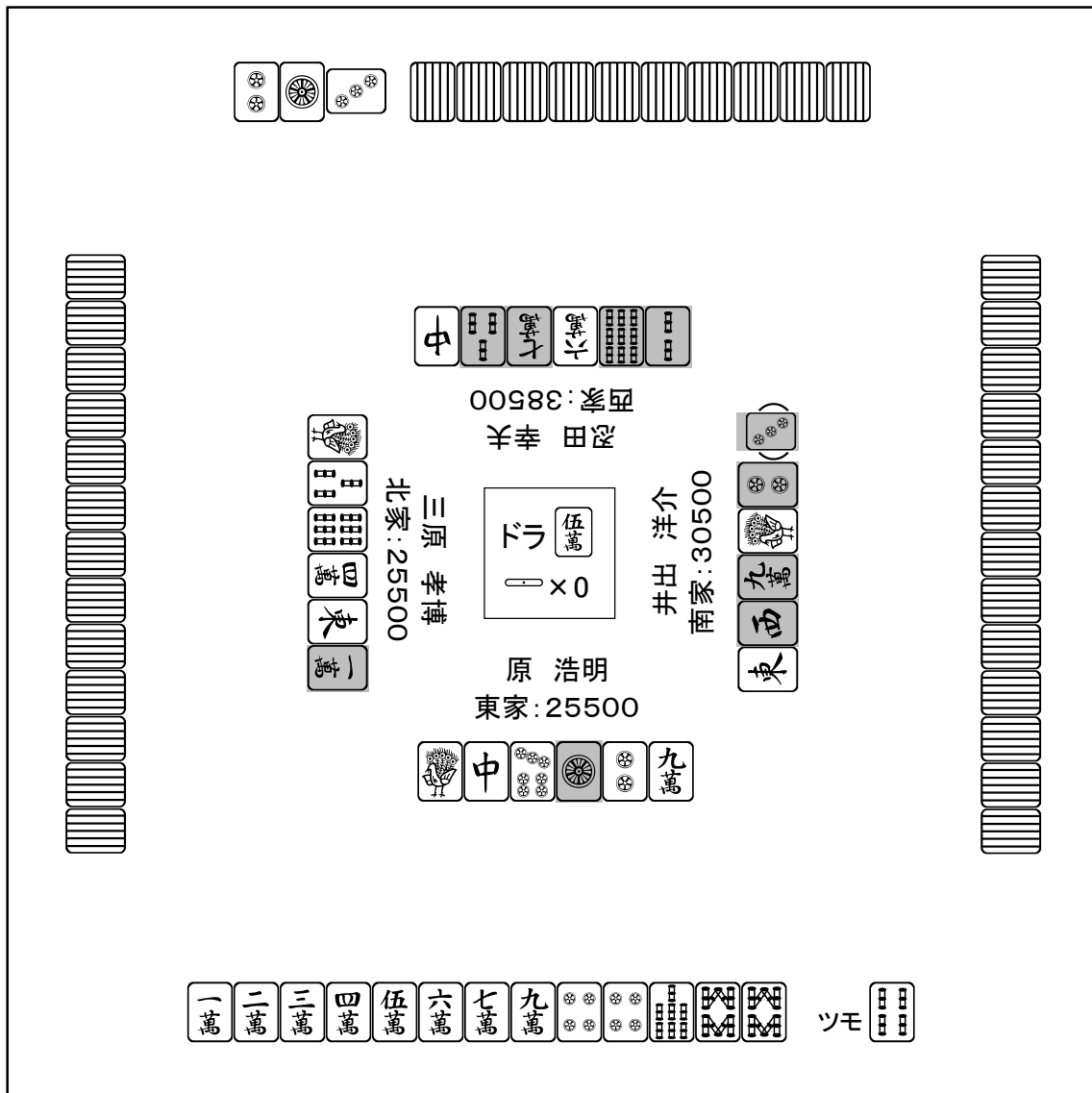
ここでソバテンになるのを嫌って、先に を切りソーズをリャンメンに決めると、ツモ や でイツツーの崩れる役無しテンパイになってしまう。




せっかくの高得点のチャンスなので、ここはイツツーを確定させ、ツモ や でもテンパイを組めるように 切りとした。


一発や裏ドラがないルールでは、2翻役の価値がかなり大きくなる。


# 第1回 BIG1カップ 決勝2回戦

## 東3局その1 7巡目




南家がツモ切った  を、西家がチー。(チーされた南家の牌は  )とカッコでくくってある)  
 これで、西家はほぼ一色手であろう。問題はチーした西家の打牌が、場に1枚しか切れていない  であったこと。

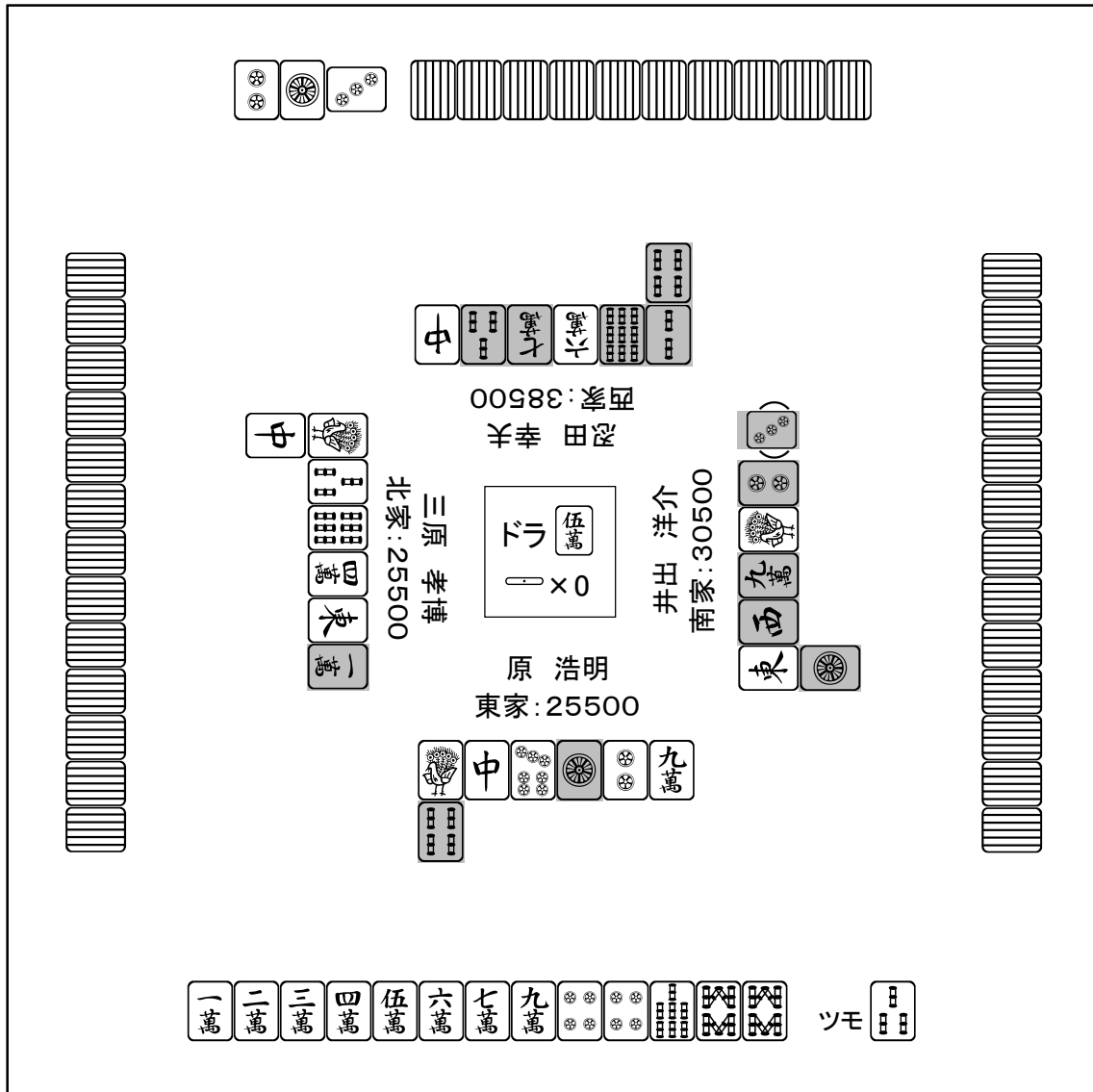
重ねれば、まだ使える1枚切れの  が出たということは、手牌はかなり進んでいることが分かる。まだ出ていない字牌も多く、絞り込むことはできないが、要警戒である。

北家は  ツモ切り。これはそれほど危険な牌でもないので、まだ分からない。

自分の手もチャンス手だけに、手がぶつかることになりそうである。

この巡目の  は全く必要ないので、ツモ切り。

# 第1回 BIG1カップ 決勝2回戦 東3局その1 8巡目



南家は、ピンズの一色手をやっている西家に対し、 ツモ切り。

しかし、この はピンズの中では大して危険ではないので、攻めているとも守りにに入ったとも言えない。 が鳴かれるとしたら、シャンポンはないので、リャンメン())だけであるが、その も3枚見えていて、可能性は低い。もちろん 単騎の放銃の可能性もあるが、いずれにしてもそれほど高い可能性ではないだろう。

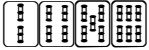


また北家が を手出ししてきた。 と を両方持ちながら、1~2巡目にソーズのカンチャンを嫌ったとするならば、その場合は早い手ではなくやはりピンズの一色手が主眼なのであろう。





5巡目の 切りのときに を引いただけかも知れないので、断定はできないが、さきほどよりはピンズの一色手の可能性が高くなってきた。



この巡目の も全く必要ない牌なのでツモ切り。












また、食い伸ばしとなる  からの  チは一、4巡目の  手出しよりさらに可能性が低くなる。





4巡目の段階で  と持っていたのに、 を切り、フリテン含みの  を残したまま、次巡の  をツモ切ったというのは考えにくい。

つまり、ここで南家に対して、 はかなり切りやすい牌なのである。(カン  ということはあるので、完全にというわけではないが)

もちろん南家がソーズを全く持っておらず、 も  も関係ない場合も多い。しかし、こういう細かいことの積み重ねが、長い目で見て大きな差となってくる。

これは、チーされたときのパターンとして覚えておいて良い形と言える。このパターンは丸暗記するのではなく、 をチーされた後に、 か  のどちらを切ろうか迷ったら、先ほどの思考をすれば良い。

ここで  が鳴かれるとすると、手の内に  と持っていることになる。すると、 をチーする前は  と持っていたということになる。

一方、 が鳴かれるとすると、手の内に  と持っていることになる。すると、 をチーする前は  と持っていたということになる。

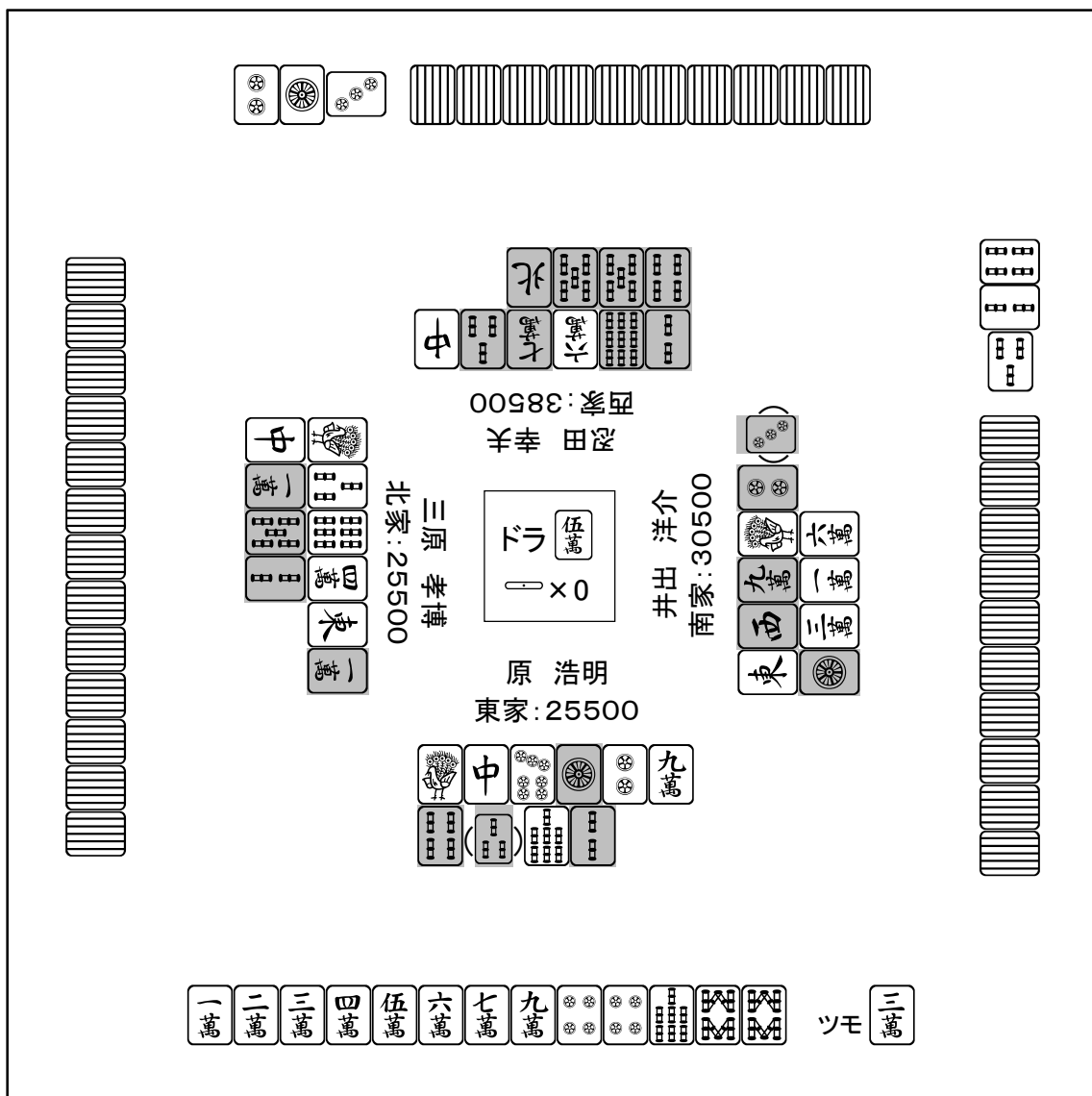
どちらの可能性が高いだろうか？ と。

最初はいちいち考えると時間がかかって仕方がないと思われるかも知れないが、何度も繰り返してこの思考をすることで、慣れてきて早い判断を下せるようになる。

この一手前を考える作業に慣れると、他の場合にも応用できるので、丸暗記ではなく一手前の形を考える習慣をつける方が良いであろう。



# 第1回 BIG1カップ 決勝2回戦 東3局その1 11巡目



南家の  $\text{六萬}$  手出しは、ドラを引いた可能性が高い。(  $\text{六萬}$   $\text{六萬}$  に  $\text{伍萬}$  ツモで  $\text{伍萬}$   $\text{六萬}$  になったか、  $\text{伍萬}$   $\text{六萬}$  に  $\text{伍萬}$  ツモで  $\text{伍萬}$   $\text{伍萬}$  になったか)

これは、ドラが余るような  $\text{伍萬}$   $\text{六萬}$   $\text{六萬}$  という形のままで、安全度の高い  $\text{一萬}$  を先に切らないであろうためである。(  $\text{六萬}$   $\text{六萬}$  に  $\text{七萬}$  をツモって  $\text{六萬}$  切りという可能性はあるが)

西家は相変わらずツモ切りが続き、新しい情報はない。既にテンパイが入っているのか、イーシャンテンのまま変わっていないのか。

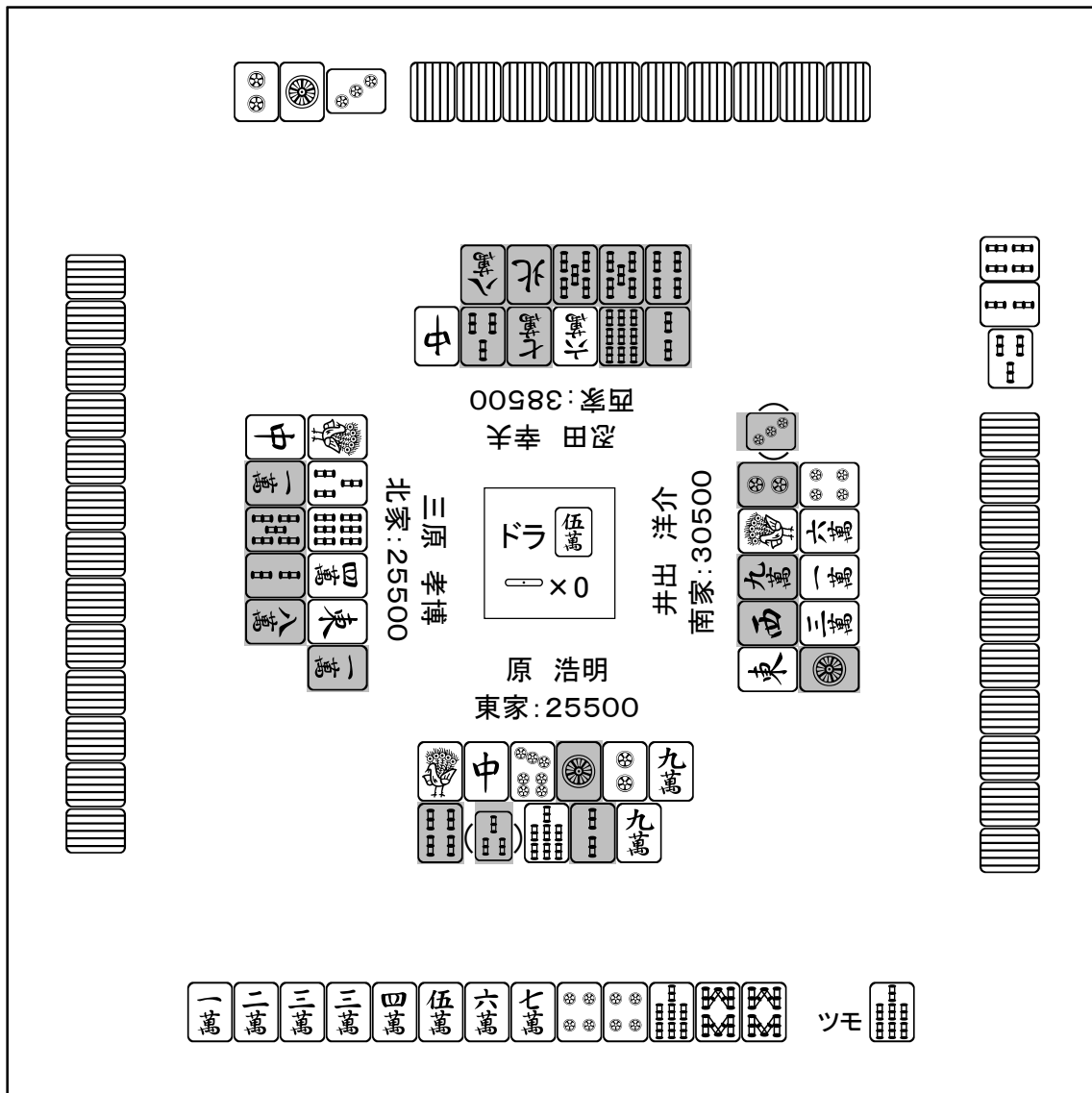
北家も、ツモ切りが続いているが、特に危険牌をツモ切りしているわけでもないので、こちらも何とも言えない。


ここで、自分はツモ  $\text{三萬}$ 。あくまでイッツーにこだわるならツモ切りだが、ドラ受けもできる3メン待ちになるので、ここでイッツーを見切って  $\text{九萬}$  切り。

ドラ受けと3メン待ちになるのはメリットだが、デメリットはイッツーならば鳴いてテンパイを取れるが、  $\text{九萬}$  を切ると鳴いて役ありテンパイには取れないこと。



# 第1回 BIG1カップ 決勝2回戦


## 東3局その1 12巡目





南家から  の手出しがあった。

これは下家の西家に鳴かれる可能性も、放銃になる可能性もある牌だけに、勝負に来た牌ということが分かる。すなわちほぼテンパイであろう。

また  の手出しで、西家も南家のテンパイを察したであろう。にもかかわらず西家は  のツモ切り。これは南家に安全なわけではないので、西家もピンズの一色手で、それなりの手になっているのであろう。

北家も合わせ打ったのか分からないが、 をツモ切り。前巡イツーを見切ったため仕掛けられない。南家にテンパイが入り、西家も押ししてきたこの巡目なら、イツー目が残っていればチーしてテンパイに取っていたかも知れない。

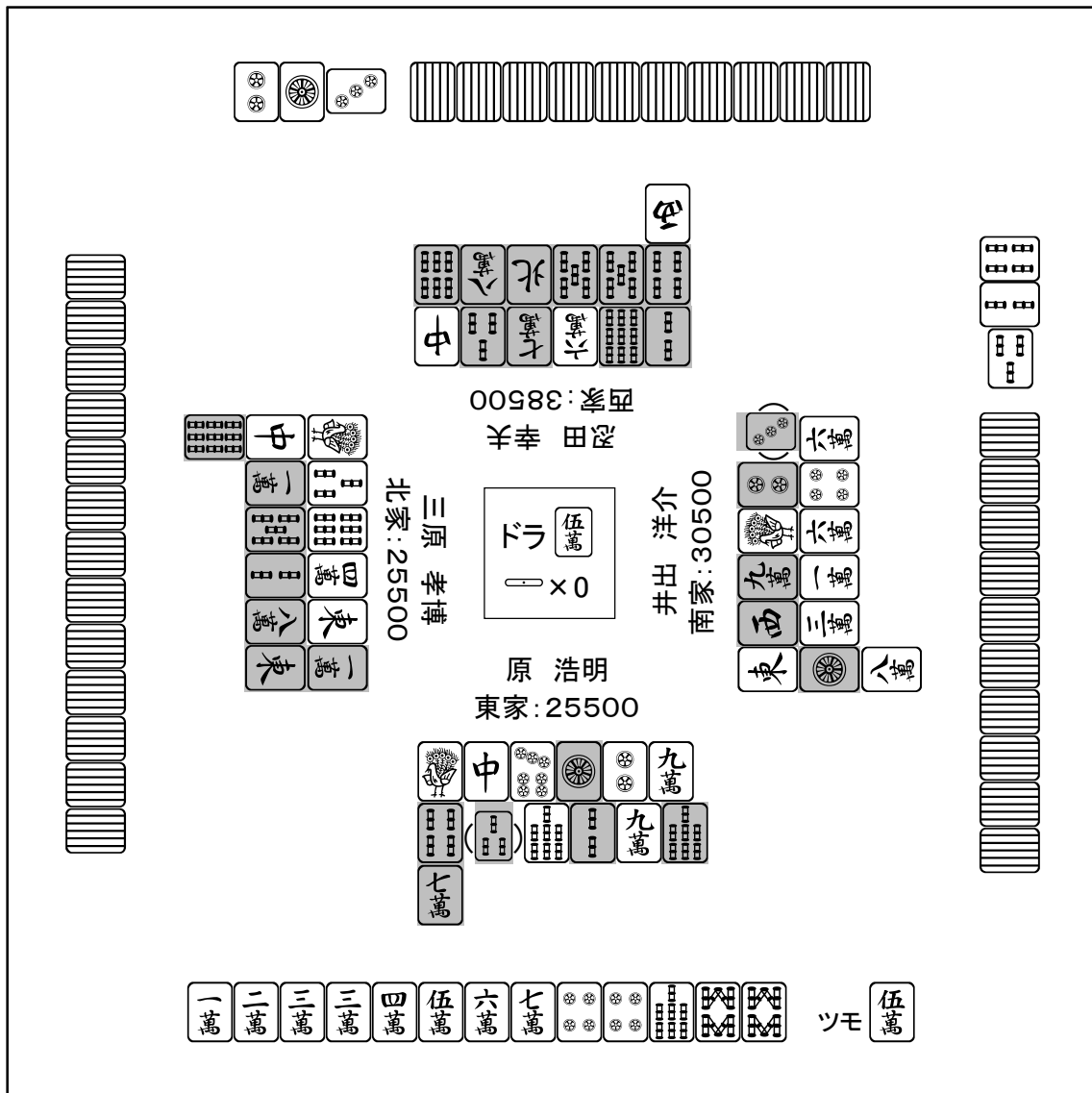
一方、自分のツモは  でテンパイを逃した形だが仕方がない。9巡目と同じ理由で  は切りやすいので、そのままツモ切りしておく。

ノーテンから2人に対し危険な牌を切りたくはないので、この後通っていないピンズを引かされたらオリることになるであろう。



# 第1回 BIG1カップ 決勝2回戦

## 東3局その1 14巡目



前巡では危険牌をつかんでオリたのかハッキリしなかったが、この巡目の南家 手出しは、さすがにオリたものであろう。

これはタンヤオで仕掛けて、 が4枚見えた今、手から出た はどのような形で持たれていたのかを考えれば分かる。

を切った段階で、カン でテンパイしていて ( と持っていて) 前巡の からオリたのか、 をトイツか暗刻で持っていて を落とし始めたかのどちらかである。

ただし、他家からは自分が持っている が見えないので、まだ南家がオリたかどうかは (恐らくオリたのであろうが) 確定はしない。南家の前巡の が空切り (からぎり: ツモって来た牌と同じ牌を手出しで切ることで、次の が から になったメンツのスライドの可能性もあるからである。

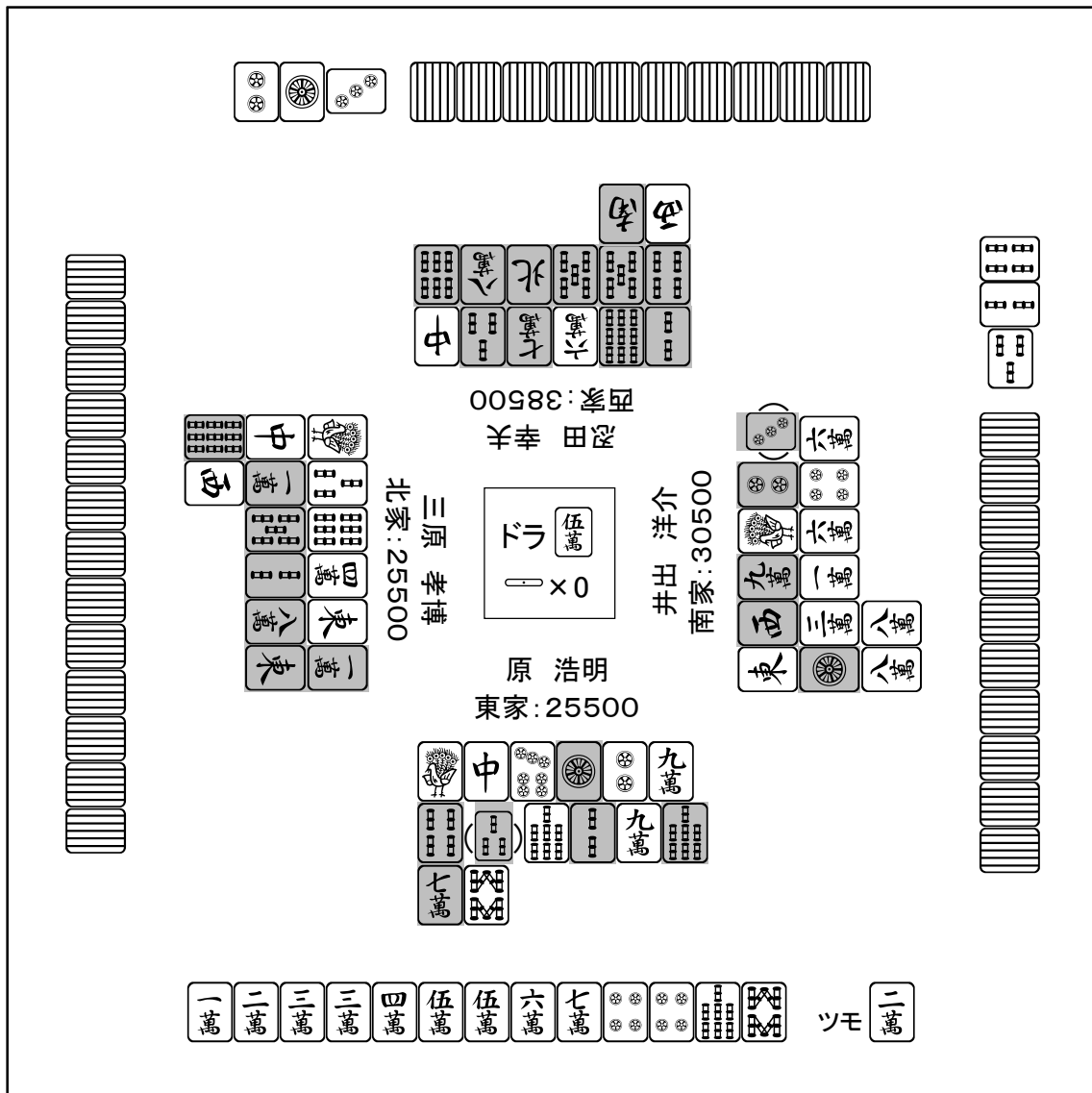
西家は1枚切れの自風 を手出し。手は進んだようだが、テンパイかどうかは微妙なところ。

自分はドラの ツモで、絶好のソーズ待ちテンパイが入った。直前に北家も をツモ切っているし、この なら出アガリできる可能性も高い。

しかも南家はオリた可能性が高いので、 もそれほど恐れずに切ることができる。

# 第1回 BIG1カップ 決勝2回戦

## 東3局その1 15巡目



やはり南家の はトイツ落としであったか(暗刻落としかも知れない)。

西家は のツモ切りで、テンパイかも知れないが、こちらも勝負にいく手になった。

さて、ここで北家が の手出し。これだけでは何とも言えないが、4枚目の が見えていない北家からは、、 と切った自分が、攻めているように見えているであろう。

前巡までは行っているかオリエているかを見せないようツモ切りを続けていたが、これだけ親が押しているの、ここでオリ始めた可能性が高い。

先ほどまで、ダマテンなら出やすいと狙っていた だが、南家と北家がオリたことになり、出アガリの可能性が低くなってきた。出アガリの可能性が低くなったならば、ここでリーチか。ダマテンにしておけば、西家からの出アガリはまだ期待できるが、出アガリできそうな相手は1人だけ。

それならば、得点的にもリーチでツモアガリを狙いに行く。

このときたまたま空切りできる ツモ。自分の捨て牌を見ると、 は手牌に必要なため残っていたようにも見えるため、空切りでリーチ。

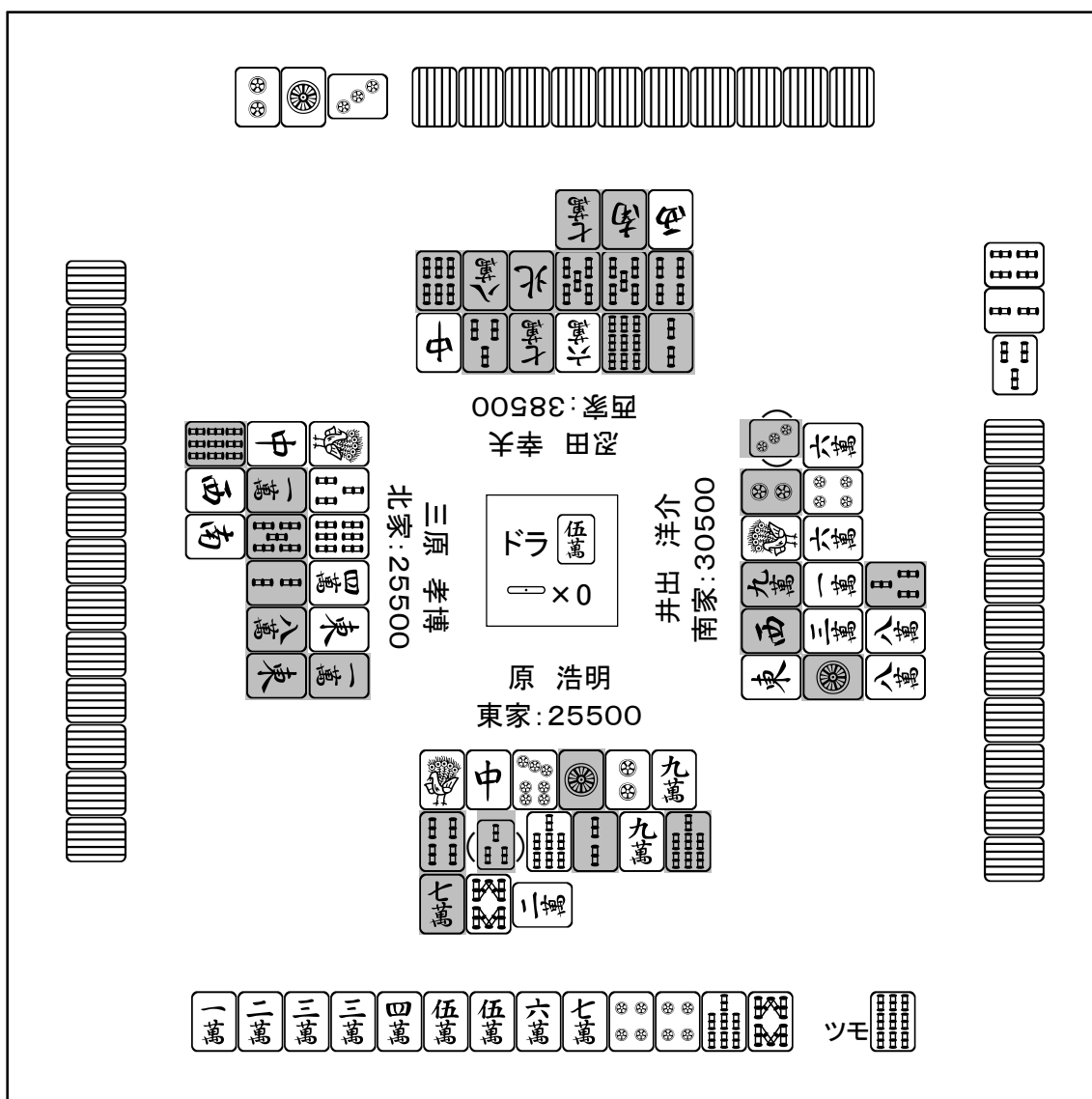
こうすることで、 の周りを警戒させ、少しでも前巡の 切りをぼかそうとしている。


また、空切りすることで前巡通った牌(この場合 と )も通るか分からないようにできる。



# 第1回 BIG1カップ 決勝2回戦

## 東3局その1 16巡目



3人が現物を捨ててきているが、南家と西家はツモ切りなので、オリているかは分からない。しかし、狙いのをツモって、一発役はないが文句なく4000オールのアガリとなった。

…と、このような感じで、全巡目を解説していきます。

いかがだったでしょう。

書いてある解説は、「最初から最後まで全部納得！」とはならなかったかも知れません。

ただ、それで良いと思います。「本当かな?」「いや、自分はこう思う」「こういう可能性もあるのでは?」そのような視点で見ても考えていただければ、それが勉強になります。

鵜呑みにせず批判の目を持ちながら読んでいただき、勉強のきっかけになれば幸いです。

このような牌譜解説に興味のある方は、<http://www.1jann.com/pro/>にて販売しておりますのでご覧ください。

今回は東3局その1のみを解説いたしましたが、そちらにある牌譜解説は、半荘1回全ての局全ての巡目に関して、このような解説をしております。

# 第1回BIG1カップ 2回戦

No. 6

## 東3局 その1

ドラ 伍萬

東家・原 浩明

配牌  
ツモ  
捨牌  
最終形

25,500  
+ 12,000  
37,500

南家・井出 洋介

配牌  
ツモ  
捨牌  
最終形

30,500  
▲ 4,000  
26,500

西家・忍田 幸夫

配牌  
ツモ  
捨牌  
最終形

38,500  
▲ 4,000  
34,500

北家・三原 孝博

配牌  
ツモ  
捨牌  
最終形

25,500  
▲ 4,000  
21,500







